

CCT2016 参加報告

華岡青洲記念心臓血管クリニック 山口隆義

皆様、こんにちは。華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。前回の施設紹介でもご報告させて頂きましたが、現在、新しい施設で奮闘中です。そんな中、例年通り CCT に参加してきました。皆さんは、CCT という会をご存知でしょうか？ CCT とは、**complex cardiovascular therapeutics** の略で難易度の高い心血管治療を、ライブデモンストレーションを中心に、その技術や知識を共有しようとする国際的な学術集会です。アメリカ圏では TCT、ヨーロッパ圏では Euro PCR、そしてアジア圏では CCT という位置付けになっているようです。

CCT では、コメディカル関連のプログラムも充実しており、コメディカル向けのライブデモンストレーションも行われています。放射線領域に関しては、血管造影関係に加えて心臓 CT や MRI に関するセッションも企画されています。数年前より、心臓 CT に関しては、高瀬クリニックの佐野さんと一緒に CT セッションを企画させて頂いております。

今年は、現在最も注目されている FFRCT を中心としたプログラムにしました。まずは、私の方から「心臓 CT に求められる新たな技術とは」と題して、イントロダクションとなる話をさせて頂きました。その後、Heart flow 社の FFRCT に関しては、岐阜ハートセンターの今井さんから、多くのデータを基にした自施設の現状について報告頂きました。さらに、東芝 Vitrea からリリース予定の CTFFR に関しては、順天堂大学附属順天堂医院の稲毛さんからお話頂きました。Heart flow は外部へ解析を依頼するのに対して、東芝 Vitrea は施設内で解析可能である点が大きく異なります。ですが、一番大事なのは解析データの信頼性です。治療の必要性を左右する数値なので、我々も襟を正して真摯に向き合っていく必要があると考えています。セッション最後には、岩手医科大学附属病院の佐々木さんから、東芝 QDCT に関して臨床データを中心にプレゼン頂き

ました。

CCT コメディカルでは、看護師さんや臨床工学技士さんも多く参加しており、放射線領域以外の情報や知識を得ることもできます。また、一般演題もポスター発表形式で行われています。その中から、事前審査で数演題が口述発表に選ばれ、最優秀演題に選ばれたら記念品が送られます（結構良い物ですよ）。

来年からは、私も **Course Director** として関わらせて頂く予定なので、さらに充実したプログラムとなるようにしたいと思います。来年、秋の神戸で是非お会いしましょう。